

＜新型コロナウイルス感染症予防接種説明書＞

予防接種を受けられる方は説明書をよくお読みになり、よく理解したうえで予診票に必要事項をご記入ください。

新型コロナウイルス感染症は、新型コロナウイルス感染症にかかった人が咳やくしゃみなどをするることにより、ウイルスが空気中に広がり、それを吸い込むことによって感染します。症状は、かぜによく似ていますが、微熱、咳、痰、のどの痛みなどが数日間持続し、鼻詰まりがないのに味がわかりにくい、においがしない、などの症状がでます。

1. 新型コロナウイルス感染症の予防

室内の換気を行う、手洗い・手指消毒、通院や高齢者施設を訪問するときなどは、マスクを着用するなどの予防方法があります。

2. 新型コロナウイルス感染症予防接種の効果

新型コロナウイルスワクチンについては、有効性や安全性が確認された上で薬事承認されており、さらに、国内外で実施された研究などにより、新型コロナウイルス感染症にかかった場合の入院や死亡等の重症化等を予防する重症化予防効果が認められたと報告されています。

また、オミクロン株流行下では、感染症予防・発症予防の持続期間等は2～3ヶ月程度であり、重症化予防効果は1年以上一定程度持続することに加えて、流行株に合わせたワクチンの追加接種を行うことで、追加的な重症化予防効果等が得られると報告されています。

3. 新型コロナウイルス感染症予防接種の副反応

接種をしたために、次のような副反応が現れることがあります。

- (1) 注射をしたところの腫れや痛み
- (2) 筋肉痛、関節痛
- (3) 頭痛、倦怠感、寒気、発熱

上記のような症状が出て数日してもよくなる場合は、医師の診察を受けてください。

- (4) 「アナフィラキシー」(皮膚のかゆみ、じんましん、皮膚が赤くなる、くしゃみ、のどのかゆみ、声のかすれ、息苦しさ、腹痛、吐き気、物が見えにくい、気分不良など)

※接種直後から30分以内にアナフィラキシーの症状が現れた場合は、直ちに接種した医師や看護師に伝えてください。

4. 接種の対象者

予防接種法による対象者は、接種を受けた日に65歳以上である方となっています。(60歳以上64歳以下で、心臓などに重い病気のある方も対象となる場合があります。三戸町役場健康推進課にお問い合わせください)。

なお、新型コロナウイルス感染症予防接種は義務づけられていません。希望する方だけに実施します。

意思の確認は「新型コロナウイルス感染症予防接種予診票」の最下段に署名していただくことで行います。

接種を受けるご本人が、麻痺などがあって署名ができない、認知症状があつて正確な意思の確認が難しい場合などには、家族やかかりつけ医によって、特に慎重にご本人の接種意思の確認を含め、接種適応を決定しなければなりません(最終的に確認ができなかった場合には、予防接種法にもとづく接種はできません)。

5. 予防接種を受ける前に

(1) 一般的注意

新型コロナウイルス感染症の予防接種の必要性や副反応についてよく理解したうえで、接種を受けるかどうかを決めてください。気にかかることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師、三戸町役場健康推進課にお問い合わせください。

(2) インフォームドコンセント

医師の十分な説明に基づく患者の同意をインフォームドコンセントと言います。法律に基づくインフルエンザの予防接種は、あくまでもご本人の希望により接種を行うものですので、インフォームドコンセントがない場合には、医師は接種を行いません。十分に医師から説明を聞き、理解した上で判断をしてください。

(3) 新型コロナウイルス感染症予防接種予診票

予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。基本的には、接種を受けるご本人が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

(4) 予防接種を受けられない人

- ① 明らかに発熱のある人：一般的に、体温が37.5℃以上の場合を指します。
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることがあきらかな人：急性の病気で薬を飲む必要のあるような人は、その後の病気の変化が分からなくなる可能性もあるので、その日は見合わせるのが原則です。
- ③ 新型コロナウイルスワクチンの成分によって、アナフィラキシーを起こしたことがあることが明らかな人
- ④ その他、医師が不適切な状態と判断した場合

(5) 予防接種を受けるにあたり、担当医師とよく相談しなくてはならない人

- ① がん、骨髄移植や臓器移植後、先天性免疫不全、HIVに感染している人
- ② 血友病など血が止まりにくい病気のある人
- ③ けいれん発作を起こしたことがある人
- ④ 高血圧や糖尿病、喘息、肥満、心筋梗塞、心不全、腎臓の病気などの基礎疾患があり、病状が悪化していたり、全身が衰弱している人

(6) 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ① 予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ② 新型コロナウイルス感染症ワクチンの副反応の多くは1～2日以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、注射したところを強くこすことはやめましょう。
- ④ 接種当日は、通常的生活をしてもかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

6. その他

(1) 予防接種を受けない場合

予防接種の説明を十分聞いた上で、ご本人が接種を希望しない場合、家族やかかりつけ医の協力を得てもご本人の意思の確認ができなかったため接種をしなかった場合、当日の身体状況等により接種をしなかった場合等においては、その後、新型コロナウイルス感染症にり患、あるいは、り患したことによる重症化、死亡が発生しても、担当した医師にその責任を求めることはできません。

(2) 副反応が起こった場合

予防接種の後、まれに副反応が起こることがあります。また、予防接種と同時に、ほかの病気がたまたま重なって現れることがあります。予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどくはれたり、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたら、医師（医療機関）の診療を受けてください。